睦月

〔むつき〕令和８年１月

新しい年を一家の人々で仲よく迎える月という意味で、睦には「むつみ」すなわち「なかよく親しみあう」の意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

はるかにも仰がぬひなしわが国の 鎮めとたてる伊勢の神垣

～明治天皇御集～

今月のことば

はるかにも仰がぬひなしわが国の
鎮めとたてる伊勢の神垣
―明治天皇御集―

明治三十六年は、日露戦争の前年で、この頃、露西亜の極東侵略の毒牙は次第に、東亜安定のためのガンになりつつあつた。明治天皇は、伊勢神宮に奉祀する天照大御神のみ心に対せられ、御自身のみ心をいかに固め決断されるか、非常の時期にあつた。然し、平和を常に念願された大御神の〝誓のみ柱〟が強固なものである以上、そこにみ心を置き、お任かせする以外にないとの御心境が、このみ歌に現はれてゐる。「我が国の鎮めと立てる伊勢の神垣」とは、この大御神の〝誓のみ柱〟の強固なことに対して安心して、任せ切らうとする陛下の御心を表現してゐる。

昭和天皇が終戦の年、一旦緩急のときには、伊勢神宮の神器を御自身で守護し奉らうと決心されたみ心も、明治天皇の日露戦争前夜のみ心と相通ずるものがある。陛下のみ心の最後の拠り所は、常に皇祖天照大御神の大御心に帰一し、これを仰ぎ奉る以外にないとの尊い御決心を、私共国民も神習はせて頂く以外にないであらう。

（神道百言　一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

鏡開　一月十一日
お供え餅で開運

正月の間お供えしていた鏡餅をおさげしておしるこにして食べる行事です。鏡餅は刃物を使わないのがしきたりで、手や木槌で割るため切ると言わずに運を「開く」という意味をこめて鏡開きと言います。

左義長　「どんど焼き」

小正月の一月十五日の前後に行われる火祭りが「左義長」です。左義長は「どんど焼き」とも呼ばれ、この日には、正月に飾った門松やしめ飾りを神社の境内などに持ち寄って焼納します。

新年に訪れた年神様が天上に帰っていくと信じられています。

Q、お参りの作法を教えてください

鳥居からくぐりますがこのとき、軽く一礼します。参道は中央を歩かないようにしましょう。道の真ん中は、神様の通り道だからです。

境内に入ったら手水舎で清めをします。右手に柄杓を取って清水に汲んで左手にかけ清めます。次に柄杓を持ち替えて右手にもかけます。そして再び持ち替えて、左の手のひらに水を受けて、口をすすぎます。最後にもう一度左手で水を流します。

拝殿の前に進み軽く一礼してから、賽銭を入れ、鈴があるなら鈴を鳴らして、「二拝二拍手一拝」の作法でお参りをします。この時正式には、礼は九十度に体を折り、拍手は両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いてから、二度拍手を打ちます。右手を戻して両手を合わせ、ここで祈願をします。最後にもう一度九十度の礼をして、軽く会釈をしてから下がります。

尚、神社によっては、一社の故実により異なった作法をおこなっているところもあり、伊勢の神宮の神職がおこなう「八度拝八開手」や出雲大社の「二拝四拍手一拝」などがあります。

継往開来（けいおうかいらい）

先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開いていくこと。

令和８年 2026年 1月

日	月	火	水	木	金	土
《１日　元日》年のはじめを祝う日です。《１２日　成人の日》大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。				1 大安 ●元日 歳旦祭 一粒万倍日 る	2 赤口 皇居一般参賀 一粒万倍日 ね	3 先勝 元始祭 うし
4 友引 三りんぼう とら	5 先負 小寒 う	6 仏滅 たつ	7 大安 昭和天皇祭 七草 み	8 赤口 三りんぼう うま	9 先勝 ひつじ	10 友引 さる
11 先負 鏡開き とり	12 仏滅 ●成人の日 いぬ	13 大安 る	14 赤口 一粒万倍日 ね	15 先勝 小正月 うし	16 友引 とら	17 先負 土用 一粒万倍日 う
18 仏滅 たつ	19 赤口 み	20 先勝 大寒 うま	21 友引 ひつじ	22 先負 さる	23 仏滅 とり	24 大安 いぬ
25 赤口 る	26 先勝 一粒万倍日 ね	27 友引 うし	28 先負 とら	29 仏滅 一粒万倍日 う	30 大安 たつ	31 赤口 み

二十四節気

【小寒　しょうかん】…五日
すでに本格的な冬の季節で、寒風と降雪に悩まされます。

【大寒　だいかん】…二十日
ますます極寒の辛苦にさいなまれる季節ですが、春はもうすぐ間近にせまっています。

六曜・選日

《六曜》
【先勝】…諸事急ぐことにより、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることにより、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり
【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
《選日の吉凶》
【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《１月》

大寒	小寒
初候・芹乃栄（せりすなわちさかう）	初候・款冬華（かんとうはなさく）
次候・水泉動（すいせんうごく）	次候・水沢腹堅（さわみずこおりつめる）
末候・雉始雊（きじはじめてなく）	末候・鶏始乳（にわとりはじめてにゅうす）
セリがよく育つ	沢の氷が厚く張る
凍った泉が動き始める	ニワトリが卵を産み始める
オスのキジが鳴き始める	

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

安産祈願　１月の戌（いぬ）の日

１２日（月）
２４日（土）

＊戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を掲げましょう

国旗「日の丸」をかかげましょう

国旗「日の丸」は朝日（昇る太陽）を象徴し、円満を意味しています。稲作を中心に生活してきた私たち祖先は、太陽の恵みに感謝してきました。また古来、国号を「日の本」「大和」としてきたことにも深い関係があります。さらに「日の丸」の赤は、明るさや情熱、勢い、誠を、白は清らかさや純粋、潔白を表していると言われます。これは清明心を尊んだ日本人の精神性とも合致します。まさに、日本国の国柄と日本人の心を、そのまま形に表現した国旗は「日の丸」を除いて他にないでしょう。

「白地に赤く　日の丸染めて
ああ美しい　日本の旗は」

この歌は明治から今日まで唱歌として、小学校で教えられています。この歌に歌われているように「日の丸」はシンプルで美しい旗です。国民こぞって祝い、感謝し、または記念する「国民の祝日」には、国旗を掲げましょう。